

理想原価追求による 原価革新セミナー

～積上型から理想追求型が革新的コストダウンをもたらす～

開催日時 **2026年 7月14日(火)～15日(水)** **オンライン**
2027年 2月18日(木)～19日(金) **オンライン** 各回とも2日間 10:00～17:00

対象 **・** 会社のコスト統括をされている方 **・** コストダウン活動プロジェクトリーダー
・ 原価企画・原価管理などのコスト計算に携わる方
・ 製造部門、生産技術部門、生産管理部門、開発・設計部門のマネジャー
・ 事業戦略を立案されている方 **・** 購買・調達部門の方

講師 **小川 正樹 氏** **参加料(税込)** 法人会員：126,500円/1名 ※参加料にはテキスト(資料)費が含まれています。
 ※昼食の提供はございません。(各自でご用意ください)
 ※法人会員ご入会の有無につきましては以下URLにてご確認ください。
<https://www.jma.or.jp/membership/>
 ※お申し込みページ内参加申込規定を確認・同意のうえお申し込みください。
 JMA専任講師
 (株)MEマネジメントサービス 顧問
 マネジメントコンサルタント・技術士(経営工学)
 会員外：138,050円/1名

本セミナーのポイント (CD:コストダウン)

- ① 製品別の実際原価をいくら分析してもCDに繋がるアクションが見えない。
- ② 標準と実際との原価差異がない原価管理をよとするのでCD余地が見えない。
- ③ 各部署で使う見積原価、実際原価、標準原価、予定原価の関連性がない。
- ④ 歩留や工数・設備効率管理の物量値が原価管理と繋がっていない。
- ⑤ 管理会計と財務会計が連動しないのでCD成果が利益に繋がらない。

①～③は標準原価をあるべき理想原価に、④～⑤は原価情報システムの一元化で、業績に直結する原価計算・原価管理になり、全社的なCD展開が可能になります。

参加者の声

- ・標準原価の設定が重要であると実感した。
- ・アンケートを基にさらに、説明・補足があり更に理解が深まった。
- ・理想原価の追求によるコストダウンについて社内では提案出来るようになった。

■ プログラム 2日間 10:00～17:00 [昼食] 12:00～13:00

1 これからの原価革新戦略

— 原価低減から原価革新活動へ —

- (1) なぜ日本企業の収益性と生産性は低いのか
- (2) 経営資源の利用効率を高める
- (3) 理想原価をスマートファクトリーで実現 **演習** 原価革新活動の進め方
- (4) 見える経営をマネジメント展開

2 コストダウンを経理数字につなげる

— 原価情報システムの一元化 —

- (1) 財務会計と管理会計の整合性 — 管理活動を経理数字に繋げる
- (2) 目的に合う原価データを整備する — 目的により異なる原価がある
- (3) 技術と製造のコストダウン努力を評価 **演習** 製品別/部門別原価計算
- (4) 原価情報システムの体系 — コストに果たす役割を明確化

3 誰・何・どれ位コストが下がるか

— 順調と思える所にCD余地が —

- (1) 誰がコストを下げるのか — 役割を明確にする
- (2) 何をすればコストが下がるか — 課題を明確にする
- (3) どれくらいコストダウンできるか — あるべき姿 **演習** コストダウン余地分析
- (4) 技術段階と製造段階の理想原価 **演習** どのようなロスが見えるか

4 技術段階の原価革新

— 原価企画によるコストマネジメント —

- (1) 技術段階の原価管理は原価企画で行う
- (2) 適正品質追求によるコストダウンの進め方
- (3) 開発・設計段階の理想材料費を実現 **演習** 理想材料費問題
- (4) 最適生産の追求と理想加工費の実現 **演習** 理想加工費問題

- (5) 基本機能だけでできるライン
- (6) 最適設備を選択する

5 製造・管理段階の原価革新

— 標準原価管理によるコストマネジメント —

- (1) 製造・管理段階は標準原価管理 **演習** 原価責任問題
- (2) 理想標準材料費を追求する
- (3) 理想標準労務費を追求する
- (4) 直接労務費を変動費と扱う **演習** 操業計画
- (5) 購買・調達の購買効率を追求する

6 コストダウンの実践活動

— 生産性の高い組織にするには —

- (1) 見えるようにすることから始める
- (2) 実行を促すアクションミーティング
- (3) 管理者のマネジメントとリーダーシップ
- (4) 人はどうしたらやる気になるか **演習** 動機付け理論

	標準原価管理			今年コストダウン		
	標準原価	実際原価	ロス金額	CP	向上率	金額
工場合計	2,755,467	3,166,251	410,784	87%	1.3%	48,360
生産本部 豊田部長	1,151,237	1,418,195	266,958	81%	1.3%	23,081
保留責任		8,045	8,045			-1,002
第1製造課 大西課長	356,492	416,463	59,971	86%	0.6%	2,940
第2製造課 亀田課長	223,721	291,303	67,582	77%	2.2%	8,591
第3製造課 小野課長	277,723	376,856	99,133	74%	1.7%	8,889
第4製造課 中島課長	293,301	325,528	32,227	90%	1.0%	3,654

原価管理月報例

※プログラム内容は変更される場合があります。あらかじめご了承ください。